



さいたま市立宮原小学校 学校だより



令和8年6月30日 第4号

学校教育目標

・たがいに努める子(やる気)・たがいにきたえる子(元気)・たがいに手をとる子(勇気)

信用・信頼

井 上 雅 史

今年は6月末までに台風が3つも日本列島へ接近しました。平年の台風の日本への接近数は、気象庁の統計では6月まで累計しても約1.7個です。今年は平年に比べて倍近い異常に早いペースと考えられるそうです。台風の発生報道があると、私たち教職員は数日前から複数の天気予報を何度も確認し当日の対応を検討します。しかし、天気予報は発信する団体によって微妙に情報が違い、また、時間が経つたびに予報が変わるので、当日の対応に苦慮します。もちろん、天気予報が確実でないことは十分に理解していますが、それでも判断の決め手となる明確な情報がなかったり、情報が変更されたりすると、どれを信用したら良いかわからず頭を悩ませてしまいます。また、天気予報の情報を信用して決断しても、実際の天候が予報と異なり、その結果ご家庭にご負担をおかけしてしまうことになった際は、大変申し訳なく感じます。

さて、前置きが長くなりましたが、今回はこの「信用」と、それと似た「信頼」について考えてみたいと思います。

信用と信頼は明確に意味が異なります。簡単にまとめると「信用＝過去の実績・条件付き」「信頼＝未来の可能性・無条件」という違いになります。天気予報は、過去の実績と現在のデータから予測した結果なので「信用できる」ということになります。一方、学校では「信頼関係」という言葉をよく使います。この言葉を使う場面は、子どもたちの未来に向けた教育の営みについて語るときです。

この「信用」と「信頼」を使った教育心理の分野でよく言われる格言に「子どもを信頼しても信用してはいけない」という言葉があります。

ここでの「信用しない」とは、子どもを疑うことではありません。子どもは心も体も成長の真っ最中です。衝動を抑えたり、先のことを考えたりする脳の部分(前頭葉)は、まだ発達途中です。ですから「約束を破る」「怒られたくなくて都合の悪いことをごまかす」「やるべきことに取り組まない」など、失敗したり誘惑に負けたりするのは、程度に個人差はあっても、全ての子どもに共通する自然な姿です。

親がそんな子どもの言葉をそのまま「信用」してしまう(大人と同じようにできるはずだと期待してしまう)と、その期待が破られた時に、それまでの期待が「裏切られた!」という強い怒りや絶望に変わります。「信用しない」とは、私たち大人が「言ったのだから守れるはずだ」とつい期待してしまい、感情的に怒ってしまうことを防ぐための戒めの言葉です。

一方で「信頼」とは、条件なしに相手の存在そのものや、これからの成長を信じることです。約束を破ったり、怒られたくなくてとっさに嘘をついてしまったりした時、その行動や言葉自体を「信用」することはできなくても、「本当は良い子でいたいんだよね」「失敗から学んで、いつか必ずできるようになる」と、根っこにある力を信じ抜くのが「信頼」です。「何があっても家族は味方でいてくれる」という安心感や信頼されているという実感こそが、子どもが失敗から立ち直る最大のエネルギーになります。

以上のことを日常生活の場面に当てはめると「信用しない」からこそ子どもが失敗しにくい環境(仕組み)を作ることがポイントになります。

例えば、子どもに「勉強しなさい!」と厳しく言ったとします。その後「言い聞かせたから、勉強するだろう」と期待して待つのではなく、ゲーム機は時間まで見えない場所にしまったり、リビングで一緒に宿題に取り組んだりするなど、勉強しやすい環境を整えます。

それでも失敗してしまった時は「信頼」の出番です。「どうして約束を破ったの!」と過去の事実を責めるのではなく、「今回は誘惑に負けちゃったね。次はどうすればできそうかな?」と、未来に向かって子どもと一緒に作戦を練るのです。

「子どもを信頼しても信用してはいけない」という言葉は、子どもは成長途中の未熟な存在であるということを忘れず、「子どもの『いまの能力(過去～現在)』を大人基準でジャッジすることをやめ、『これからの成長(未来)』の最大の応援団であり続ける」という、親子関係の中で冷静な視点をもつことの大切さを説いた温かいメッセージだといえるのではないのでしょうか。

~~~~~  
先日の台風6号接近の際には、保護者・地域の皆様にはご心配をおかけしました。さいたま市教育委員会から今回の対応を検討し、新たな「今後の『一斉臨時休校』の基準と対応について(お知らせ)」が出されました。6月26日付でオクレンジャー配信しましたのでご確認ください。